

情勢報告（平成29年2月分）

中央西農業振興センター高吾農業改良普及所

日高村で(株)イチネン農園がミニトマト栽培に取り組めます



農業参入企業との連携協定
調印式の様子
(右側がイチネンHD 黒田社長)

1月23日、高知県庁で自動車リースなどの総合企業「イチネンホールディングス」が、県の次世代施設園芸団地整備事業等を活用し、日高村でのミニトマト生産事業に取り組むことが発表され、高知県、日高村、コスモス農業協同組合との4者での連携協定が締結されました。

事業計画では、子会社の(株)イチネン農園が、年間約400tを生産し、JAから園芸連を通じ全国に出荷し、3、4年後の販売額4億円と黒字化を目指しています。

今後、普及所では、日高村、JAコスモス、園芸連及び県関係各課との連携をさらに強め、事業計画目標の達成を支援します。

仁淀川流域の茶生産者やJAが高松市で販売促進活動を実施 —販売力強化研修の成果を実践—



お客さんに自製茶の特長
を説明しながら販売

1月28日、仁淀川流域茶産地振興協議会の7事業者が、高級ブランド店が並ぶ高松市丸亀町商店街三町ドームで、自製茶の販売と宣伝活動を行いました。この活動は、産業振興アドバイザー事業によるセールストークなどの販売力強化研修の仕上げとして行いました。各事業者とも自らが店の前で応対し、自製茶や土佐茶の特長、仁淀川流域のPRもしながら試飲・販売を行いました。販売開始後2時間あまりで売り切れる商品がでるなど、販売は好調で接客や応対も円滑に行うことができました。

普及所ではこの事業に計画から実施まで参画し、販売支援も行いました。これからも同協議会の販売強化による売り上げ向上を支援していきます。

トマト産地の振興と将来の担い手確保のために —JAコスモスがトマト産地をPR—



パワーポイントを使ってJA
コスモスのトマト産地を紹介

1月31日、JAコスモスが県立農業担い手育成センターで、トマト産地の紹介・PRを行いました。県内有数の産地である日高村や佐川町での産地振興や将来の担い手確保のため、センター研修生を対象に実施したものです。当日はJA営農指導員と普及所職員各1名が、9名の研修生に日高村や佐川町の就農者募集のための産地提案書などを示して説明しました。

研修生からは、受け入れ体制や栽培全般に関する質問があり、担当者も「今ここのトマトの糖度はどれくらいか」と研修生に質問したりしていました。紹介の最後には「まずは日高村や佐川町に遊びに来てみてください」とよびかけました。

普及所では、これからも地域や関係機関と連携して、産地振興につながる取り組みを進めていきます。

環境測定装置を栽培管理に積極的に活用 ― J A コスモスニラ生産部が勉強会を開催 ―



環境測定装置勉強会の様子

J A コスモスニラ生産部では、今年度、環境測定装置が5戸に導入されました。生産者から機器の取り扱い方がわかりにくいなどの声があり、2月17日にメーカーを講師に環境測定装置の勉強会を開催しました。

当日は、新規導入農家や次年度導入予定者など7名が参加し、「スマホからすぐに見られる方法が知りたい」「データを参考に炭酸ガス施用やかん水をやりたい」など様々な意見や質問が出され、測定装置を積極的に活用したい意気込みが伝わってきました。

普及所では、今後もJ A と連携して、各ほ場のデータ分析や次年度の事業申請の援助など、環境制御技術を利用するための取り組みを支援していきます。

(農) ヒューマンライフ土佐組合員を対象に山椒のせん定講習会を開催

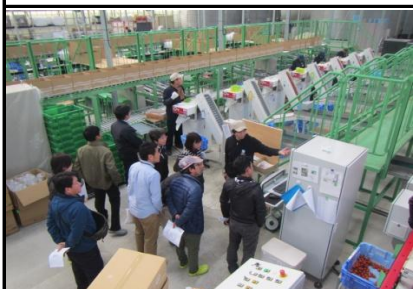


せん定講習会の様子

2月3日、越知町鎌井田地区で、ヒューマンライフ土佐組合員を対象とした山椒のせん定講習会を開催し、36名が参加しました。当日は普及所職員が講師となり、成木園のせん定方法を中心に、縮伐や大きい幹のせん定、日焼け防止のため立枝を残すことなど、方法の説明と実際のせん定を行いました。組合員からは「切除する枝の選択や本数はどうするか」、「病虫害や生育不良への対応は」などの相談があり、防除対策なども併せて情報提供を行いました。

越知町は薬用山椒の産地でもあることから、普及所ではヒューマンライフ土佐と連携し、薬用作物の安定生産に向けた支援を継続していきます。

日高村のトマト生産者が兵庫ネクストファームの生産・出荷施設を視察調査



視察調査中の様子

1月31日、J A コスモス日高支所トマト部会生産者および関係者ら10名が、兵庫県の(株)兵庫ネクストファームの視察調査を行いました。同所では高軒高ハウスでのハイワイヤー誘引や環境制御などの栽培管理および整枝誘引や収穫を行う作業環境やパートなどの雇用状況、選果機や箱詰め・出荷の状況等について調査を行いました。

参加者からは「トマトが高く誘引されており収穫作業がしやすそう」「施設内が整理整頓され休憩場所なども整っており作業についても役割分担などができていて、とても働きやすそう」などの声が聞かれました。

日高村では(株)コスモスアグリサポートやイチネン農園によるトマト栽培が行われることから、普及所は栽培や雇用の情報提供など、トマト産地拡大のための支援を継続します。

地域の農業の将来について考えてみませんか ―高吾地区集落営農研修会を開催―



集落営農の講演会

2月20日、普及所は、JAコスモスパストラルホールで管内の4町村を対象とした集落営農塾を開催し、集落営農活動や日本型直接支払いに取り組んでいる集落など、関係機関を含めて30名が参加しました。

参加者からは、「5年先が見えない」「若いリーダーがいない」など集落の将来を危惧する意見もある中で、「今後の課題が見えてきた」という声もあり、集落営農への関心の高さがうかがわれました。

普及所では、集落での話し合いの場に参加し、組織設立から活動強化など、集落営農活動を支援していきます。

村の駅ひだか「さんさん市」の周年野菜販売を目指して ―栽培講習会を開催―



野菜栽培講習会の様子

2月15日、日高村の直販施設「村の駅ひだか」の出荷者からなる「さんさん市部会」を対象に、恒例の春作野菜の栽培講習会を開催しました。今回は、テキストの種苗カタログの提供元である(株)カダ屋シードからも講師として参加してもらい、総勢24名での勉強会になりました。

テキストを基本に、品目ごとの作付計画や直販向きの品種選択など、普及所職員が実践した結果の話は参加者の関心も高く、また種苗販売店からはふだん聞くことのできない育苗のコツなども紹介され、有意義な時間になりました。

普及所では、栽培講習会の計画的な開催など、直販所の生産振興を支援していきます。